

OB会 だより



定年後の人生・・・

新しい道に挑戦し、輝いている仲間がたくさんいる

そのひとり 石畠 隆子さん

ダンスに挑戦

社交ダンスを始めたのは50歳過ぎてからですから、今年で14年目ですね。自分も驚きです。本当に長続きしています。

習い始めた頃は踊れるようになった事がうれしく、教室のパーティーでは毎回のようにデモンストレーション出演していました。注目される快感を経験すると、デモ中毒状態になりましたねえ。今はパートで働く方かたわら、レッスンを続けています。

週末に通うダンスパブには70歳代、80歳代の仲間も大勢います。その人達が優雅に踊っているのを見るたびに、私もその年まで丈夫で美しく踊りたい。それと何と言っても若いダンサーから漲る生気を楽しむために、気分もウキウキ 出かけて行きます。

競技会ダンスのような派手な踊りは観るだけでいいのです。私は健康維持のために背筋をシャキッと伸ばして、人生究極の目標「ピン・ピン・コロリ」を目指して、その日までダンス!ダンス!ダンス!

新入会員紹介

よろしくお願い致します



♪♪ 酒井 富子 さん

5月29日、還暦を迎え再雇用にて同じ職場（埼玉協同病院）で仕事を続けています。自分としてあまり還暦との自覚がなく、いつものように日にちが過ぎていきますが、職場の皆さんによる還暦パーティー、保険証の番号が変わり、年金の手続き、基本給が30%下がった給料袋を目にした時に、節目の年になったのだなと実感しております。

60歳を境に何かを考えなくてはなどとあまり考えずに日々を過ごしていましたが、OB会に入会し早速資料を送っていただき、皆様のメッセージを読ませていただきました。元気に生き生きと過ごされている様子が目に浮かびます。

仕事を続ける以上、自分も学びを深めながらももう少し力を抜くことなく頑張りたいと思って、今年の11月学会認定輸血看護師の取得をめざし少しずつ勉強しています。皆様との交流を楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

♪♪ 清宮 浩 さん

今春、医療生協を退職し、埼玉民医労にお世話になることとあいなり、あわせて「退職者の会」にもお邪魔させていただくことになりました。まだ若輩者であり、仕事柄、何のお役にも立てないと存じますが、微力ながらお手伝いさせていただければ幸いです。大諸先輩方におかれましては、さらなるご助言、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

♪♪ 清水 恵子 さん

自分自身、定年まで医療生協で働き続けられるとはいうふうには、全く思っていませんでした。何度退職願を書いて「辞めてやる！」と思ったことでしょう。不満と怒りが私のエネルギーだった時期もありました。でも心広く大きく受け止めてくれた先輩や、いま頑張っている人たちがいたからこそやってこれたと感謝しています。感謝という言葉は私に縁遠いものの一つでしたが、真っ直ぐにそう思います。

定年後は、医療生協で私がなかなかできなかった地域でのネットワークづくりの活動にかかわっていただけると幸いです。

OB会の皆様ともいろいろな活動や楽しみに参加させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



私の近況・
会員通信

プロ野球を楽しんでいます

川合 省

暑い季節になりました。

プロ野球も交流戦も終わり、リーグ戦に入り熱くなるはずですが、私の好きな埼玉ライオンズは梅雨入りです。今年は出足がよかったので気合を入れて所沢、幕張に足を運んでいるのですが。

交流戦ではロッテ対ヤクルト戦にTさんと、西武対阪神戦にはIさん・KさんそしておまけのMさん・Sさんと、年1回の観戦を楽しみました。

ロッテ戦にはIさん、Yさんたちと、他のチームが相手の時にはHさんと、という具合に試合によって行く仲間を変えて野球観戦を楽しんでいます。

みなさん、医療生協さいたまの現職・元職の人たちです。それぞれ今の職場で頑張っています。彼らが仕事を辞めたらOB会に誘ってみます。

残生を前向きに生きる エネルギーをもらいました

高橋 昭雄

去る3月24日、秩父で催しをいただいた私の妻の「偲ぶ会」には、OB会員の皆さんがおおぜい参加していただきましてありがとうございました。

結果的には、私を励ます会になったようで、民医連などの「友人」の支えがなんとも有難いものでした。60年の別離の衝撃から抜け出して、残生を前向きに生きるエネルギーをもらったと思います。

日本は平和発展の国として 世界に貢献してほしい

阿部 テイ

今回も素晴らしいOB会だよりありがとうございました。相変わらず一人暮らしの母の所に行ったり、地域活動などで退職して趣味の一つも持たずに7年目になりました。

今憲法が危ない、96条を変え、そして戦争する国にするための9条を変えたい阿部政権。あの悲惨な戦争を反省して作った憲法を変えたいというが、世論調査では過半数が反対です。日本は平和発展の国として、世界に貢献する国になってほしいです。

2年前に亡くなった私の好きな作家 井上ひさしさんは、平和を願い戦争をとり上げた作品が多く、亡くなる直前に「戦争で突然無残に死んでいった人を思うと、自分は病気で死ぬんだから幸せだ」と言ったそうです。昨年7月に脳腫瘍で天国に旅立った孫(小6)はみんなに惜しまれて亡くなった。殺された命じゃないんだと思ったら、孫がいつそいとおしく、気持ちも少し楽になりました。孫の思い出の木「花水木」を植えました。

皆さんが退職後も 生き生きと
輝いているのがうれしいです

寺島 萬里子

- 4月25日に協同病院で白内障手術を受けました。経過良好です。
- 家の建て替えが終わり、5ヶ月ぶりに我が家に戻りました。おついでの節はお寄りください。
- OB会だより、毎号楽しく読ませていただいています。皆さんが退職後も生き生きと輝いているのがうれしい！
- 会員やそのご家族の訃報は載せていただきたいと思います。また、療養中の方のご様子なども簡単でいいからお報せください。



銀山温泉

4月・5月・6月の私

山本 康男

- 85歳を過ぎて、旅したいと言う人がおりましてその心意気にうたれて一緒に旅をしています。初めての場所として選んだのは、銀山温泉、以前の支部長さん達との楽しい時間です。立石寺にも寄って来ました。雪の季節とまた違った味わいがあります。(6月)
- 昨日溜まり席で相撲観戦、良く見えました。白鵬が琴欧州を破った瞬間はすごかったです。(5月)
- 世界フィギュアスケート国別対抗戦2013に行きました。真央ちゃんは華があります。生はいいですね。(4月)

いろいろな方の一言
楽しいです

山形 文子

- 4月があっという間に過ぎ、早や5月の連休となりましたが、連休にはあれもやろう、これも整理しよう、埼玉にも出かけようと計画していたこと、一つも完成しそうにありません。産業医を新たにたのまれたりして、また忙しさは続きそうです。
- 全国ニュースによれば、埼玉のOB会だよりのページ数は 断然一位ですね。すごいですね～。
- いろいろな方の一言を読むと楽しいです。引き続きのせてください。

組織担当だった仲間と箱根へ

高橋 喜長

4月17日～18日、かつて医療生協さいたまの組織担当のなかま（有志）が、昔を懐かしがってか、箱根湯本温泉行きを計画してくれました。

新宿から小田急のロマンスカーに乗って、着いたのは箱根湯本は有名な伊藤園ホテル「箱根湯本」、現役時代にかえって交流ができました。帰りはケーブルカーで早雲山に、強羅から登山電車に乗り換えて箱根湯本まで、芽吹き始めたばかりの箱根の山々は、金色・銀色に輝く若葉と、今を盛りと咲きほこる山桜の桃色とうす緑のだんだら模様にはえて、自然の素晴らしさに圧倒されました。

忙しいさなかの一泊旅行でしたが、「良く生き返ったな」と、みんなにいわれたときに「そうだ、なにかしなくちゃ」と、毎日がんばっています。

この道 50周年

高橋 喜長

定時制高校に入学して「新安保阻止闘争に遭遇」その時、この道を歩み出してから、今年の5月25日で50周年になりました。

定年退職から12年、これからは「死にゆく準備期間（本当に脳腫瘍の手術で近所までいってきた）」という、今の道を一緒に歩いてきた「弟の声」を受け止めています。

畑と雑木山をもつ貧農の、男5人兄弟の2番目として生まれて、集団就職した「カタクラ」で3年余、夜学入学をめざして移った町工場で16年余、その後生協の職場で25年、就職するまで農家での15年を含めると、かれこれ60年をお世辞にもめぐまれたとはいえない、まさに「働かなければ食えない」勤労の階級に身を置いてきました。

「働くものの、働く者による、働く者の社会」をめざして一筋の道、あまり役にたちませんでした。そこに名を連ねて今日があり、遺言は3つ

- ① 「核兵器の廃棄・核戦争阻止」そして「原発の即時廃棄」。
- ② 9条をまもって、平和で福祉の国づくり。紛争は話し合いで解決。
- ③ 後継者問題。自分がどう生きたか、後継者に示して共感を得ていく。

母の病状に一喜一憂の 日々です

仲 隆子

遠くにいる母（93歳）の病状に一喜一憂の日々ですが、たった一人の孫娘にもメロメロです。整形と歯科に通院中、内科的には今のところ問題ないようです（肥満以外）。会のご発展をお祈りしています。



馬場文三さんを偲んで

行田医療生協・中央医療生協本部・医療生協さ
いたまに 30 年間勤務された馬場文三さんが、5 月
25 日入院先の熊谷生協病院で亡くなりました。
享年 81 歳でした。心からご冥福をお祈りします。

「弔電」 馬場さんの訃報にOB会の仲間は驚きと悲しみでいっぱいです。

OB会で始めた「きずな訪問」の最初が馬場さんでした。長い在宅療養の中でも
希望を持ってしっかりと生きてこられた馬場さんに私たちは励まされていました。

OB会はこれからも仲間を大切にし、歩んでいきます。見守っててください。

馬場さんの書かれた文字の美しさを思いだしながら・・・

安らかにお休みください。

埼玉民医連退職者の会

「そうだよな、文ちゃん」

肥田舜太郎

馬場文三こと、愛称「文ちゃん」が亡くなりました。

1948 年、国民健康保険もなかった行田市で、貧乏人でも診てくれる

医者がほしいという足袋屋の母ちゃんたちの声で行田診療所が生まれ、東京から派遣され
て所長になった私が診療を始めた最初の日に「どんな医者だか顔を見に来た」とふてぶて
しく私の前に座ったのが当時、18 歳だった「文ちゃん」でした。妙に気が合ってすっかり
仲良しになりました。

赴任した 2 年目の 1950 年、社会党でも立候補できない保守の町で、私が共産党市議に
立候補することになりました。10 指に満たない活動家の中で先頭になって街頭演説を案内
してくれたのは文ちゃんでした。診療があるので演説は夕食後、裏長屋の路地の奥で何十
メートルも遠くの支持者の家からコードを引いた有線のハンドマイクで喋ります。ピリで
落選という町の予想でしたが 3 位で当選。文ちゃん曰く「何で一位でないんだ」

裏長屋で四六時中、工業用ミシンを踏むお抱え職人の母ちゃんのご苦労は文ちゃんに聞く
のが一番と言われた消息通でした。欠点は無類の酒好き。本人も苦労でしたが、何と言っ
ても奥さんのご苦労が最高。

貧乏人の神様といわれた行田診療所時代、足袋の材料を山と積んだ裏長屋のボロ畳にあ
ぐらをかいて文ちゃんと二人、おばやんのこぼし話を聞いたところが、なぜか民医連医療の
花だったように思います。「そうだよな、文ちゃん」



馬場文三さんと私の思い出

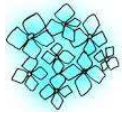
(行田協立病院時代を中心に)

小野 敏

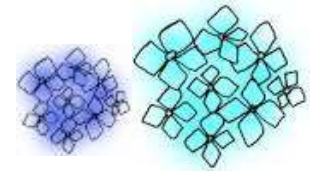
馬場さん(40歳)私(25歳)の時、行田協立病院で初めてお会いしました。当時、馬場さんは木造2階の夏は暑く、冬は寒い部屋で、田口専務と愚痴も言わず仕事をしていました。特に、ガリ版印刷を武器に機関紙・宣伝物を中心とした仕事でした。

馬場さんの文字は、きれいで、誰にも理解できる論理展開をしていました。一流の宣伝・組織者でした。

その後、埼玉中央医療生協の合併のために宣伝活動を通じて大きな役割を果たしました。26歳で行田の若僧事務長になった私に、理論的、指針的に指導を受けましたことに感謝しています。馬場さん 安らかにお休みください



馬場さんの思い出



仲村 敬子

浦和市元町3-5-1のどぶ川沿いの建物、1階が中央医療生協の本部、2階に県連事務局があったころ、馬場さんは行田から中央医療に異動してきました。毎日のように、夕方になると長島さんや櫻庭さんたちと、お豆腐などを買ってきて酒盛り?をしていました。なつかしい思い出です。

OB会の「きずな訪問」でお訪ねしたとき(11年9月)、とてもお元気で「広報の仕事ほとんど全部、ほんとうによく働きました。誇りにも幸せにも思っています」と話していましたのに。

協同病院時代、私は組合員むけ機関誌「ふれあい」の編集をしていて、馬場さんに取材の組合員を紹介してもらったり、いろいろ助けてもらいました。話し方がおもしろくて「文ちゃん、文ちゃん」とだれからも親しまれていました。何ページにもわたる文書を、きれいにそろった字で書き続ける技は見事なものでした(ワープロなどまだなかったのです)。

長島さん、櫻庭さん、宮沢さん、菅沢さん、馬場さん、一つの時代をいっしょにバリバリ仕事をしてきた人たちが、今この世にいないのがとても不思議なことに思えます。

今から24年前、埼玉協同病院10周年記念誌2「きのう きょう そしてあした」が発行され、各部門を紹介しています。当時 医事課にいた私は、最初のページを、「病院の顔・受付」と考えたものの先に進まず状態でした。その時、馬場文三さんから「ありがとう・笑顔」という詩をいただいたのです。これだと思い、写真と組み合わせ、一ページを飾ることができました。

あのなつかしい馬場さんの手書き文字をもう一度

眺めながら、みなさんで馬場さんを偲びましょう。 小川 祥江



歯科リニューアルオープンで地域訪問 新患は 2・6倍に

今春4月1日に、歯科がリニューアルオープン、診療ユニットも1台増設して5台に最新の機器も導入。同時に2001年の開設から副所長として歯科の基礎を築いてこられた早田繁先生の定年退職に伴い、鳥海泉治先生が着任。医師体制も2診体制を週3日に拡大しました。

このリニューアルオープンを組合員に知らせる

「1km圏内1000軒訪問」を行いました。

結果は4月の新患は月平均15名から39人に増え、拡大した診療枠を一気に埋める大きな成果となりました。中には20年ぶりに診療所を受診した組合員さんもいました。訪問行動に参加した組合員は「創立当時の患者さんは、病院化されたときは行田で唯一の病院が建設されて本当に心強かったそうです。

子育て期には子供さんが受診、その後は高齢期を迎えた両親、次は自分たちの世代と、ご家族の歴史がそのまま診療所の発展と重なっていることに感激しました」と感想を寄せていました。



新しくなった歯科診察室

35年間建て替えなし「難攻不落の診療所」の新しい事業展開

「サービス付き高齢者向け住宅」の検討を開始

内科の患者さんは年々減少しています。要因としては組合員の高齢化に伴い通院が困難になってきていること。入院に伴い退院後の受診機関変更があげられます。

行田市の高齢化率は今年度23%ですが、平成27年に27%、平成32年には30.5%と推計され、併せて一人暮らしの高齢者が急速に進むものと想定されています。

こうした地域の状況もふまえ、35年間建て替えなしの老朽化した施設の今後を考える時期となり、北部事業検討会で検討が始まりました。



行田 古代ハスの里

全国で急速に増えてきている「サービス付き高齢者向け住宅」建設という、法人としては初めての始新しい事業展開を「来年度の総代会に提案することを目標に準備に入りたい」と語る高橋事務長に熱い意気込みを感じました。

初代所長 肥田瞬太郎先生を迎え、 創立60周年記念式典を

10月20日(日)行田商工センターで「健康まつり」と同時開催の60周年記念式典には、初代所長の肥田舜太郎先生を迎え開催します。

8月・9月には、60周年プレ企画「地域で暮らし続けるための健康講座」を開催します。実行委員会は取り組みの中で「診療所のきのう、きょう、あしたへ」の思いを組合員、職員みんなで共有し、地域に打って出ようと活気にあふれています。

この間、肥田先生が出版された本を読んだ感想、そして東北大震災の現地を訪ねた会員のレポートを特集しました。

肥田先生が 出版した2冊の本を読んで

神作 信男

この間、肥田舜太郎先生が2月に出版した2冊の本を読みました。1冊は「肥田舜太郎が語る いま、どうしても伝えておきたいこと」(日本評論社)、もう1冊は「被爆と被曝放射線に負けずに生きる」(幻冬舎ルネッサンス)です。

1冊目は、OB会総会の時に買いました。私の隣の席にいた梅原さんが「肥田先生にサインしてもらいなよ」と言うので早速サインをしてもらいました。

もう1冊は、自宅近くの本屋で見つけました。

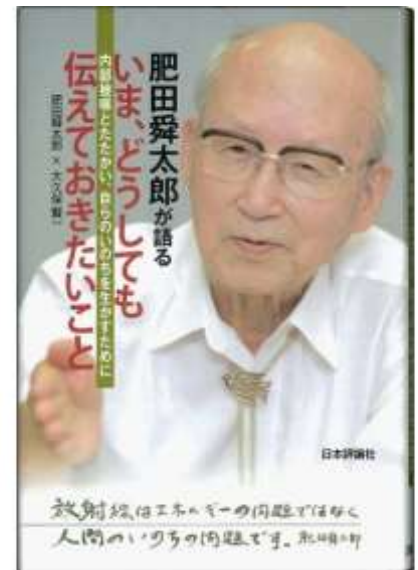
私は、肥田先生の本は、昨年「内部被曝」(扶桑社)、一昨年に「内部被曝の脅威一原爆から劣化ウラン弾まで」(筑摩書房)を読みました。

これらを読む中で私は、内部被曝について先生の体験と分析から、そのしくみの概要とその深刻さを学ばせてもらいました。また、この内部被曝への理解が現在の原水禁運動の中でまだまだ広がっておらず、理解をひろげることが緊急の課題であり、核や原発があるだけで放射能をだして内部被曝をひろげることになることを明らかにすることが核抑止論に対する明確な論理的反論になることもわかりました。

また、2月出版の2冊を読んで先生のあまり知らなかった面を見ることができました。ひとつは、先生が医学生で軍隊行きになり一兵卒の時、厳しい訓練での成績はトップだったとのこと、一番になった理由は殴られるのがいやだからそれを避けるために「一番の兵隊」になったとのこと、こういう面を持っておられたのだと思いました。もうひとつは、私も先生と同じように山岳部に所属し、ロッククライミング・岩登りをやり、「納得できるまでは動かない」「瞬時に本質を見極める力」を身をもって体験したとのことです。

まさに生死をかけたポイントだと実感しています。ここでも先生の新たな面を知ることができました。

肥田先生のこれらの著書を読む中で、あまりに身近にいる先生の人類にとって平和にとってのかけがえのない姿、そして内部被曝とたたかい核廃絶をすすめるかけがえのない姿をあらためて実感するものです。



私も言いたい

「福島原発事故後、早々の終息宣言はなんなのだ」

「橋下市長はそれでも弁護士か」

早田 繁

肥田先生の『いま、どうしても伝えておきたいこと』とは、一言でいえば“人権”ということだと思えます。

原爆投下の日からずっと被爆者とともに歩いてこられる中で培われてきたものが、必ずしも明確ではありませんでしたが、ドイツを訪れた時、初めて気づかされたものです。“日本には人権意識がまったくない”と。

政府はどうか。1968年の時点で「もう原爆の影響と思われる病人は一人もいない。死ぬべき者は全部死んだ。したがって、広島・長崎の被爆者に関する医学問題は、現在日本にはまったくありません」と日米共同報告。

原発の「安全許容量」は、人間の命に対する安全ではなくて、電力会社の利潤を確保するための基準であること。長時間労働を強いる会社などが挙げられています。

他方、被爆者・国民はどうか。自分は社会の中で求められたこともない。新聞やテレビに出ることもない。取るに足らない人間だと思ってしまっています。自分の命を大事にし、考えることもせず、どこか具合が悪くなったときは医者にいけばよいというのが大方。

そこで先生は熱く語りかけます。「自分という人間は世界中でたった一人しかいないんだ」「自分の命の主人公は自分自身であること」「昔から良いと言われてきていることをやろう〔早寝早起き、良く噛んで食べる等〕」「悪いことは止めよう〔タバコ、飲みすぎ、夜更かし等〕」「免疫力を高めよう」です。

追加で私も言いたい。

福島原発事故後、早々の“終息宣言”は何なのだ。

橋下大阪市長は慰安婦にさせられた人たちの人権に対する意識がまるでない。

それでも弁護士か。

三度目の福島 行ってきました

石原囿美



3月26～27日、コースは、白河→土湯→双葉郡広野町→いわき市

- 福島県の人口は、原発事故前は200万人以上だったのが、2年後の3月11日には195万人に減った。避難者は15万人以上に及び、県外避難者は約57,000人。内埼玉県に3,772人。
- 今回は、『ふくしま復興共同センター』の『福島からの報告』をもとに、改めて知らされたことは、住民の生活が、原発事故で根こそぎ壊されたということでした。
- 一つの例 ～ 保育園の園庭で、園児が転んで肘をすりむいた。園児は泣くのではなく



擦り傷にくっついたドロを見て真っ青な顔をして『放射能が体に入った』と言って震えている、こういうことが、あちこちで起こったという。生活を壊すということは、こういう事態を引き起こすんだということ。

- 経済復興は少しも進んでないというのが実感
- 津波被災の直後、火災に襲われた、いわき市潮崎地区の現状の映像。全く手付かず。被災者は見通しもなく避難生活を強いられている。
- 双葉郡広野町の瓦礫仮置き場（所沢航空公園の2倍位）。

最終処分場建設の見通しがたたないので、早晚、ここは溢れる。福島県の瓦礫は放射能汚染されているので、岩手、宮城のように他県に依頼して処分できない。県内に最終処分場を建設しなければならない。

広野町は人口 5,802 人（議会定数 12 人～党議員一人）、避難解除後町に戻った人は 780 人、除染作業関係者が 3,500 人（推定）入っていて、町の公園・空地に寄宿舍がくまなく建っている。実態は町当局もわからない。

国は、具体的効果的な対策は何もやらないで、安倍総理は『再稼働』を言い出した。

「何を考えているのか」現地の人々の実感です。

- 第 1 原発から 30 キロ圏内の広野町にある東電の火力発電所。原発稼働と同時に稼働。燃料は石炭。CO2 の問題がある。
- 土湯は鳴子、遠刈田と並んで三大こけしの産地。だけど、原木は現地のものを使用できない。除染が進まないから。いままでは備蓄していた材料で制作していたが、もう他県から『輸入』するしかない。土湯温泉の旅館 22 軒の内 5 軒が廃業に追い込まれた。客は震災前の 6 割に減っている。
- 賠償金をテコにした東電と国による県民の間に『分断』が持ち込まれている。



信じられない話を一つだけ ～ “賠償金をもらっているのに

あの人たちは、いつまでここにいるのか。税金は、払わないのに“凶々しい”ということが、面と向かって、又陰口を公然と言われ始まっているとのこと。弱い者どうしてタタキあうように仕掛けられているようです。

- 「共同センター」の人が言う～「こうして、実情を視に来てくれるのはありがたいことだけれど、何よりも皆さんにやって欲しいことは、埼玉に帰って、夫々の持ち場で、県民の皆さんに問題点を訴え、広げることをやって欲しい」と。

「南相馬市をたずね、現状を知ろう」

参加してきました

朝妻 幸平

5 月 26～27 日の 2 日間、新座市革新懇・新婦人新座支部が主催する「南相馬市を訪ね現状を知ろう」に参加した。東北自動車道福島西インターから現地入りし、最初に訪ねたのが伊達市霊山町、現地の農民連の方の案内で目にしたのは、放射能で汚染されたシイタケの原木、丹精込めて栽培したシイタケが野積みされている姿。これにはビックリ！ 東電に対する怒りがこみあげてきた。

7 日は南相馬市に入り、地元の共産党市議や新婦人の会員、南相馬市出身の川村さん（石神在住・医療生協組合員）の中学時代の同級生の案内で避難指定区域を訪問。いまだに野積みされたままのがれきの山々、津波によってすべて流失した集落、450 世帯あった集落が 1 軒を残して流された無残な姿にショックを受け正視することができなかった。さらに

誰一人住んでいない家々の立ち並ぶ避難指定区域内の住宅街、ポツポツ見えるブルーシートの家（東電が補償を少なく見せかけるためやっているらしい）

もしこの地に原発がなかったら、原発事故がなかったら、決して見る事がなかった光景に、安全神話を発信し続けた時の政権や御用学者に激しい怒りを覚えるのは、国民の素直な気持ちである。

今朝の新聞に日本とインドが原子力協定「早期に妥結」の文字が躍っている。原発の輸出のことだ。安倍総理をはじめ、政権の面々が被災地を訪問し見聞きした末の結論が「日本の原子力は、世界一安全だ。福島で実証された」と公言。原発の再稼働を急ぎ、原発の輸出に狂奔する姿は、金もうけだけが目的の一部財界と共に「死の商人」と言っても言い過ぎではないはずである。

7月には参議院選挙が行われる。各党の主張や政策を良く学び、投票したいものである。

姉の急死、そして高齢へ向かうということ

石丸 乾二



寝入りばなへ次姉からの電話。「美穂ちゃん（姪）から電話があったんだけど、泣きじゃくってよく聞き取れないんだけど、梯子さん（長姉）が亡くなったようなのよ。とりあえず第一報。明日朝詳しい連絡が来ると思うので」翌朝、姪たちとメールしてわかったこと、昨夜、義兄が帰宅してトイレを見ると電気が点いていて、例の長トイレと思って、昼間出かけた先の話のいつものように報告していたが、それにしても、もう20分以上も動きがないのはおかしいと、しかも、1人分の夕食の用意もダイニングにそのまま……。トイレの下の方の木のすきまから頭が見えたので大変だと思い、でもドアはカギがかかっている開かない。やっとそこで119の電話を……。救急隊はレスキュー隊も呼び、トイレのドアを壊して救出するも……。杏林大学病院に運んで、検死。MRIで、『胸部大動脈解離』と連絡が来た。？と思って、インターネットを検索すると、驚愕の解説文が続いている。

インターネットには、致死率80～90%とも書いてあった。また、高齢者に多いとも……。



姉はもうすぐ78歳となろうとする桜の季節だった。

姉の葬儀の準備の打ち合わせからの帰途、私の右目の右外に糸くずが絡まっているのが見え始めた。忙しさが一段落して、某開業眼科医で診てもらったら、やはり飛蚊症で生理的なものと……。

あまり、紫外線を気にしなかった罰か『紫外線によるガラス体の中の活性酸素が原因』のようなことも書いてある……。

歳を重ねると、いろいろなことが起こって溜息。定年後何日か経って右の臀部から大腿部にかけての痛み、歩くのも、トイレもやっとならぬと、そろりそろりと歩いて近くの整形へ。座骨神経痛とやらでボルタレンサポ50mg1本でケリ。耳の穴の中が痒くなったり、あそこが痒くなったり、

歯周病の進行を食い止めるのと差し歯の修理とで歯科通い、虫刺症も治りが遅いし、気がつけば疣、切れ痔も花盛り……。血圧も境界領域を突破。血糖値上昇もヘモグロビンA1cはなんとか、LDLコレステロール、 γ -GTPも油断すると簡単に上がることがある。胃カメラは毎年と……。

この先、何が起こっても覚悟が必要だと痛感する今日この頃、30年程前、老人医療が無料になる日を指折り数えていた初老の人たちが、うらやましくも思えます。

.....

お知らせコーナー

.....



秋

ぶらり散策 …… みんなで行きましょう

「江の島・鎌倉」紅葉と古寺のんびり旅

※日時・・・12月2日（月）北鎌倉駅改札口 10時30分集合
詳細は後日お知らせします。



あなたも参加しませんか

民医連退職者の会 第7回全国交流集会

と き：2013年10月22日（火）～23日（水）
ところ：宮城県・松島（東松島・のびる地区をたすね被災地激励）
テーマ：忘れないで！ 東日本大震災と原発大被害

特別講演1 「東日本大震災・宮城民医連の救援活動～その教訓と復興の課題」
講師 水戸部英利氏（宮城厚生協会理事長）

（元全日本民医連理事、副会長）

2 「地震・津波・原発震災から3年目～福島を今を訴える」

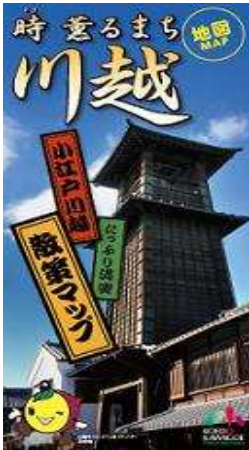
講師：伊藤達也氏（浜通り医療生活協同組合理事長）

（原発反対住民運動連絡センター全国筆頭代表）

オプションツアーは23日午後～24日12時30分
女川町・石巻市・南三陸町に連帯激励



蔵の街 川越へ 小嶋美智子



4月、参加者8名で川越「小江戸蔵造街並み」散策に。「喜多院先回り小江戸巡回バス」に乗って、地図とバス停と時刻表とにらめっこ。どこでランチをしようかとわくわくしながら。平日なのに人がいっぱい。蔵の町は良くここまでと感心するばかり。

15年間、生協の「きのこ山菜教室」で月2回、帰りに先生の車で通り抜け、JR川越駅へ行っていました。車の中からいつも見ていた景色をこんど初めて歩きました。狭い道路に大勢の人と車、蔵の町はむかしの道路巾と間口の高さ、タイムスリップを楽しみました。

浦診OB会 総会報告 小嶋 美智子

6月30日、割烹“千代田”に於いて、23名参加(会員19名)で総会をおこないました。埼玉民医連OB会からは富田会長が参加、あいさつをいただきました。

近況報告のにぎやかなこと、まだ現役もいて。1年分の報告は短かったり、長かったり。福島からは前日に仲間のお宅に泊まって参加する人、高橋喜長さんは小田急ロマンスカーに乗ってきたと嬉しそうに語ってくれました。都議選の躍進は大きな話題になりました。



半夏生



アジアンティック



韓国・済州島の旅・4月

大久保 忠一

石のおじいさん「トルハルバン」

丸い目玉にずんぐりのトルハルバンは済州島を厳しい自然からまもる守護神。石像に触れると願いが叶うそう。私もあやかろうと手に手を重ねました。

「私の散歩道」

小田 政満

思わず足を止めての一枚です

畑はたのしい！

瀬川 則男

大きな実をつけた「すいか」

わかりますか？

黄色の花はズッキーニです。

花びらにはミツバチがひと休み。

畑は癒され・たのしめる

肥料がいっぱい。



「春のぶらり・妻沼聖天山」

残りのひとコマ

富田 孝博

「利根大堰」を背に、仲間に手を振っている姿、誰だかわかりますか？

きれいな百合の花が・・・

松倉 徳子

昨年OB会で行った「栄村」
ここで買って来た百合の花が
咲いた。“大きくて珍しい色”だ
と近所の人や、通る人から声か
かる。“ちょっと自慢”



あとがき

今号もたくさんの投稿・写真等ありがとうございました。

入力しながら思わず涙があふれた原稿、新しい仲間を迎えた喜び、などなどOB会だよりを作りながらその喜びをかみしめています。この中で「今だからこそ、第一世代の人たちの話を聞きたい」そんな思いを強くしました。「民医連医療の花」語り合うのは「今でしょ」（よ）